

専門分野				
臨床心理学、ユング心理学、表象文化論				
研究課題				
心理療法と表現活動、深層心理学と共同体				
教育活動				
担当授業科目(学部)				
演習 A、演習 B、人格心理学 I、人格心理学 II、心理アセスメント法(通年)、思春期青年期心理学、基礎演習 I&II、インターンシップ-1、卒業研究(通年)				
担当授業科目(大学院)				
臨床心理事例研究演習 I & II、総合的事例研究演習 I & II、臨床心理事例特修 I				
事項	年月	対象者	概要	
教育方法の実践例				
作成した教材・資料集				
その他教育活動上特記すべき事項				
研究活動				
著書・CD・論文・学会発表 ・演奏会等の名称	単共 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	共著者、共同発表者、共演者の名 前、曲名、担当頁、概要など
著書・訳書・CD 等				
『遠野物語 遭遇と鎮魂』	共	2014 年	岩波書店	赤坂憲雄、河合俊雄、田中康裕ほか 3 名との共著、担当部分 p135-163、担当章名「語ることのできないもの=物語と共同性」、内容:遠野物語を読み解くことにより物語性を軸にした人の心理的な協働の可能性を論じたもの。
学術論文				
「鍛冶論文へのコメント」	単	2012 年	京都大学臨床心理事例研究、第 39 号、pp.38-41	境界例のクライアントの面接を通じて、心理学的差異について論じ、心理療法において治療的な基盤になるのは分析よりも共感であることを論じたもの。
「池田論文へのコメント」	単	2012 年	東洋英和女学院大学心理相談室紀要第 16 号、pp.99-104	ネガティブ感情と共にあることから抑うつになることと、ネガティブなものを抱えられるようになることへの変容について論じたもの。
現代詩手帖特集版『はじまりの対話——Port B 「国民投票プロジェクト」』	共	2012 年	現代詩手帖特集版、赤坂憲雄、磯崎新、猪股剛ほか 16 名の対談集、監修高山明(Port B)、思潮社	東日本大震災後の社会状況に関する調査研究とそのシンポジウム記録。
「転換期の指導力」	単	2013 年	「授業力&学級統率力」6 月号、pp.12-13、明治図書出版	教育の現代的な課題である特別支援や学級崩壊といった子どもたちの変化をど

				のように指導につなげていけるかを論じたもの。
「箱庭療法学会全国研修会全体会講演・箱庭療法と物との関わり」	単	2013年	箱庭療法学研究、第26巻第2号、103-122頁	ものとの関わり心理療法的な意味を事例に則して解説したもの
「乗岡論文へのコメント」	単	2014年	神戸女学院大学大学院心理相談紀要、第15号、pp.21-25	主体性の希薄な青年期女子との面接と不適応を通じて、大人になり母子分離へと歩み出すクライアントについて論じたもの。
「心理療法の独自性」	単	2014年	上智大学臨床心理研究、第37号、pp.5-6	日本の心理療法の独自性を問い直し、心理療法が独自性を内容的に持ち得ないものであり、むしろ形式的/質的な側面で特異であることを論じたもの。
「シンポジウム 河合隼雄の事例を読む」	共	2014年	ユング心理学研究、第6巻、13-58頁	河合隼雄の事例の現代的な解釈についてのシンポジウム記録。
「土井論文へのコメント -主体とは何か？家と死：心理療法のさまざまな同時性-」	単	2015年	京都大学臨床心理事例研究、第42号、pp.106-111	自閉症スペクトラム傾向を持つ青年期男子の事例を元に、自我強化とは異なる主体の成立や、夢分析にあらわれる心理療法的変化の同時性について論じたもの
「新子論文へのコメント」	単	2015年	天理大学カウンセリングルーム紀要、第12号、pp.106-110	統合失調症を発症した思春期の息子を持つ母親の心理療法事例を元に、母親への心理教育と、パラノイア傾向を持つ母親自身の心理療法との同時成立について論じたもの
「浅岡あかね氏へのコメント」	単	2015年	武庫川女子大学生生活科学研究所紀要、第25号、pp.42	浅岡あかね氏のアート作品について、心理学と物理学の観点から検討を行ったシンポジウムの記録とコメント
「治療者が治療者になるプロセス-石黒論文へのコメントとして-」	単	2016年	専修大学心理教育相談室年報、第22巻、10-12頁	事例を通じた治療者の成長プロセスについての論文
「神経症からの出口-坂本論文へのコメント-」	単	2016年	天理大学カウンセリングルーム紀要、第13号、199-202頁	神経症への固着とその出口について事例に則して論じたもの。
「プエルを巡って-伊藤論文へのコメント-」	単	2016年	東洋英和女学院大学心理相談室紀要、第20号、180-185頁	クライアントの未成熟を否定的なものとして理解するのではなく、発展的なものとしてみるプエルの概念について事例に則して解説したもの。
「後藤論文へのコメント」	単	2017年	神戸女学院大学大学院心理相談紀要、第17号、pp.XX	臨床心理面接における私の成立について事例に則して論じたもの。
「かすかな移行としての心理療法-ユング心理学から見た変容-」	単	2017年	箱庭療法学研究(受理済み)	てんかんのクライアントの事例を検討し、心理療法における変容とは何かを論じた論文

学会発表				
「箱庭療法学会全国研修会全体会講演 箱庭療法と物との関わり」	単	2013年	箱庭療法学研究、第26巻第2号、pp.103-122	箱庭療法と物自体についてアートや震災事例を通じて論じた2時間講演の記録。
「シンポジウム 河合隼雄の事例を読む」	共	2014年	ユング心理学研究、第6巻、pp13-58	河合隼雄の残した高校生との事例論文についてシンポジウム形式でコメントを行った学会シンポジウム記録
“Self and Other: Is it an occultism, a philosophy or a psychology”	単	2016年	International Congress for Analytical Psychology, 29. August, Kyoto	ユング心理学の自己概念と哲学的他者概念の再検討から、心理学の独自性を論じるもの。
“From Subjectivity to Psychological Interiority”	共	2016年	International Congress for Analytical Psychology, 1. September, Kyoto	ゲーゲリッヒの内閉性の概念の検討を通じてユング心理学の新しい理論を多角的に論じるもの。
「個と共同性へのイニシエーションーある30代女性の夢を通じた心理療法過程ー」	単	2016年	箱庭療法学会第30回大会、2016年10月16日、帝塚山学院大学、大阪	ある30代女性の面接事例を検討することを通じて個の確立と共同性の確立の矛盾の同一について論じたもの。
演奏会・発表会				
演劇公演『光のないⅡ』	共	2012年	フェスティバルトーキョー正式作品	演劇作品にプロジェクトアドバイザーとして参加
演劇公演『東京ヘテロとピア』	共	2013年	フェスティバルトーキョー正式作品	演劇作品にプロジェクトアドバイザーとして参加
演劇公演『宿命の交わる場所-秋田の場合-』	共	2014年	国民文化祭/秋田アートプロジェクト参加作品	インスタレーション作品に出演・アドバイザーとして参加
演劇公演 メディア・パフォーマンス『秋田国語伝習所』	共	2015年	文化庁委託事業 AKIBIPlus プロジェクト	メディア作品に出演・アドバイザーとして参加
演劇公演 『前橋聖務日課』	共	2016年	アーツ前橋「表現の森」および、平成28年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」	メディア作品における調査とシンポジウム対話者として作品制作に参加
その他の研究発表、演奏				
その他の著書、訳書等(雑誌原稿等を含む)				
「学校に求められる人間関係」	単	2013年	「信濃教育」10月号、pp.11-21、信教印刷	学校現場で人間関係を育てるにはどのような教育方法が必要なのかを問うて、個性と共同と両立を目指した教育を論じたもの。
「ドイツ調査報告」	単	2013年	『外国籍児童生徒の就学義務をめぐって』、p.103-105、東京未来大学所澤研究室発刊	外国籍児童の教育に関する教育制度と教育内容の国際比較調査研究のドイツ連邦共和国の事例調査。
8 海外文献書評 Lament of the Dead: Psychology after Jung's Red Book」	単	2014年	ユング心理学研究、第6巻、pp.163-169	2012年に亡くなったユング派の碩学ジェームス・ヒルマンの最後の『赤の書』をめぐる対談集に対する書評

「時持論 芸能の力」	単	2014年	河北新報社	10月26日発行の日刊新聞への寄稿、被災地における芸能の役割と心理的支援の関係について論じたもの
「古い未来」	単	2014年	週間アキタ	10月31日発行の週刊新聞への寄稿。古いという民俗の現代社会生活における意味と心理療法の関係について論じたもの
「前橋聖務日課」	共	2017年	一般社団法人 Port 観光リサーチセンター	アーツ前橋でのメディアパフォーマンスのドキュメント記録
研究助成金の受給状況				
科研費の採択				
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
演劇的現実体験を通じた実生活上の意識変容に関する深層心理的研究	科学研究費・基盤研究 C		研究代表者	
	支給額		支給年度	
	210万円(平成26年度)		平成26～28年度	
その他の外部資金による活動				
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
外国籍児童生徒の就学義務に関する法的基盤と制度的支援の国際調査	科学研究費・基盤研究 B		研究分担者	
	支給額		支給年度	
	10万円		平成23～25年度	
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
異文化対応能力育成教育と外国人児童の就学促進-先進諸国の多文化的教室の現場から-	科学研究費・基盤研究 B		研究分担者	
	支給額		支給年度	
	5万円		平成28～30年度	
研究タイトル	助成金タイトル、支給元		研究代表者・分担者の区別	
演劇によるダイバーシティ活性化因子の抽出と現実の多様性受容に関する深層心理的研究	科学研究費・基盤研究 C		研究代表者	
	支給額		支給年度	
	340万円		平成29～31年度	
その他研究活動上特記すべき事項	年月		概要	
学内委員等				
就任期間	機関名・委員名・役職名			
平成26年度～現在	ハラスメント委員会委員			
平成27年度～平成28年度	就職委員会委員			
社会活動				
学会役員				
就任期間	学会役員名			
平成26年4月1日～現在	日本ユング心理学会理事、日本ユング心理学会国際委員委員長			
公開講座				
講座名、講演タイトル	単共の別	年月	場所	概要
大阪狭山市成人大学講座「成人の発達障害と中年期の危機」	単	平成28年5月	大阪狭山市公民館	地域連携事業の一環の地域成人向けのに時間の講座
学外機関委員等				

就任期間	機関名・委員名・役職名	
その他、学会や学術的団体での活動、社会活動上特記すべき事項		
平成 23～28 年度 福島県教育委員会 震災後緊急支援活動		
海外での活動		
海外での教育、研究、大学運営、国際貢献にかかわること		
期間	国名	概要